日本海沿岸部における中世前期の祭礼芸能に関する文化資源学的研究
２年度の成果報告

坐摩神社権禰宜　橋本裕之

１　はじめに

日本海沿岸部は中世前期に淵源する祭礼芸能が今日でも数多く分布している。とりわけ王の舞や獅子舞は多数の事例を擁する福井県のみならず石川県や富山県にも伝承されており、地域社会に定着して個性的な民俗芸能に発展している。本研究は中世前期の祭礼芸能が各種の文化資源として機能している様態を分析する。実際は①教育資源としての祭礼芸能、②地域資源としての祭礼芸能、③学術資源としての祭礼芸能という三つの項目を設定した。２年度の内容は以下のとおりである。

①教育資源としての祭礼芸能。福井県三方郡美浜町宮代に鎮座する彌美神社の王の舞を美浜中央小学校における生きた教材として活用する方策を実践した。

②地域資源としての祭礼芸能。石川県羽咋市に数多く伝承されている獅子舞が地域社会における紐帯として再評価されている現状を調査した。また、石川県七尾市に伝承されているお熊甲祭りと青柏祭、富山県氷見市に伝承されている唐島祭りが複数の地域社会を統合する役割をはたしている様相について調査した。あわせて中島お祭り資料館・お祭り伝承館の常設展示について調査した。

③学術資源としての祭礼芸能。富山県射水市加茂中部に鎮座する下村加茂神社の牛乗り式（やんさんま祭り）と稚児舞、福井県越前市などに数多く伝承されている獅子舞について調査して、中世前期の祭礼芸能という視座に沿って学術的な価値を検討した。また、かつて伝承されていた中世前期の祭礼芸能に関する具体的な様相を知らせる事例として、福井県越前市大滝町に鎮座する岡太神社・大瀧神社に伝わる鼻高面と獅子頭、滋賀県高島市新旭町深溝に鎮座する日吉二宮神社に伝わる鼻高面について調査した。日本海沿岸部以外の各地においても、中世前期の祭礼芸能の痕跡を色濃く残しており本研究にも深く関連する事例について調査するのみならず、関連したテーマを扱う美術館・博物館・資料館の展示についても調査した。

福井県・石川県・富山県の北陸３県は浄土真宗の影響が強いため個性的な民俗があまり見られないと考えられてしまいがちであるが、実際は中世前期の祭礼芸能に関する痕跡が数多く残されている。本研究はこれまで看過されてきた日本海沿岸部の芸能文化がはたす役割を再評価するという意味において、新規性、萌芽性、独創性を十二分に持っていると考えている。日本海沿岸部における中世前期の祭礼芸能が地域社会に定着して個性的な民俗芸能に発展している消息を描き出すことによって、こうした祭礼芸能を各種の文化資源として評価した上で実際に活用する方法の可能性を提案することができる。したがって、学術的な成果のみならず社会的な活動に発展する実践的な効果が期待される。以下、①～③についてくわしく報告しておきたい。

２　教育資源としての祭礼芸能

福井県三方郡美浜町に分布する王の舞は、彌美神社・宇波西神社・織田神社という三つの祭礼に奉納されており、いずれも美浜中央小学校・美浜西小学校・美浜東小学校の祭礼学習において教育資源として活用されている。実際は報告者が長年にわたって講師として各小学校に出向いて、王の舞や獅子舞に代表される中世前期の祭礼芸能が持つ意義について講義しており、こうした祭礼芸能が地域愛を涵養する手がかりとして重要であることを確認している。

だが、新型コロナナウイルス感染症が拡大した結果として依然として当該の祭礼を完全に斎行することができていない現在、小学校における祭礼学習も厳しい状況に置かれている。美浜町教育委員会や美浜町歴史文化館とも討議を重ねながら、今年度は福井県三方郡美浜町宮代に鎮座する彌美神社の王の舞を美浜中央小学校の祭礼学習において教育資源として活用するべく現地調査を実施した。実際は美浜中央小学校において弥美神社の祭礼と芸能に関する授業を実施した上で、祭礼当日も６年生に対して適宜解説することによって、王の舞のみならず獅子舞をも生きた教材として活用する方策を実践することができた。

美浜中央小学校における祭礼学習

弥美神社の祭礼における六年生

３　地域資源としての祭礼芸能

石川県羽咋市に数多く伝承されている獅子舞は、中世前期に淵源すると考えられる事例がいくつか見られる。２年度は羽咋市に多数分布する獅子舞の個別的な状況を把握するべく、石川県羽咋市四柳町に鎮座する四柳神社の祭礼と石川県羽咋市大町に鎮座する御門主比古神社の祭礼で奉納される獅子舞の天狗と獅子について現地調査を実施した。どちらもムカシという演目を保持しており、文字どおり能登獅子の古い芸態を残しているとも考えられるから、中世前期の代表的な祭礼芸能である王の舞と獅子舞が発展した可能性を指摘することができる。

また、石川県羽咋市千路町の天狗と獅子・石川県羽咋市柳田町の天狗と獅子・石川県羽咋市滝町の天狗と獅子・石川県羽咋市東川原町の天狗と獅子・石川県羽咋市兵庫町の天狗と獅子・石川県羽咋市柴垣町の天狗と獅子・石川県羽咋市寺家町の天狗と獅子・石川県羽咋市一ノ宮町の天狗と獅子のみならず、石川県羽咋郡宝達志水町今浜の天狗と獅子についても現地調査を実施することによって、羽咋市における獅子舞の全体的な状況を把握することが

できた。羽咋市における獅子舞は在来型の能登獅子と移入型の氷見獅子に大別することができるが、前者が中世前期の代表的な祭礼芸能である王の舞と獅子舞の発展形であると考えている。だが、こうした事例は今日でも地域社会における紐帯として再評価されていることを強調しておきたい。

２年度は石川県七尾市に伝承されているお熊甲祭りと青柏祭、富山県氷見市に伝承されている唐島祭りについても調査した。石川県七尾市中島町に鎮座する久麻加夫都阿良加志比古神社のお熊甲祭りに登場する多数の猿田彦も、王の舞の系譜に位置付けられると考えられる。初年度は台風によって中止されたので実見することができなかったが、２年度に現地調査を実施することができた。あわせて中島お祭り資料館・お祭り伝承館の常設展示についても調査した。一方、石川県七尾市山王町に鎮座する大国主神社の青柏祭は府中町・鍛冶町・魚町が巨大な曳山を出すことによってよく知られており、富山県氷見市丸の内に所在する光禅寺の唐島祭りも中町・今町・浜町・湊町が獅子舞を競演するため数多くの観客を集めている（湊町は現在、獅子舞を奉納していない）。こうした事例はいずれも今日でも複数の地域社会を統合する役割をはたしており、現代社会における地域資源として機能している消息に接近することができた。

なお、北陸３県に分布する中世前期の祭礼芸能に関連したテーマを扱った石川県立歴史博物館の常設展示と特別展、高岡市福岡歴史民俗資料館の常設展示と企画展、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館の常設展示と特別展のみならず、小松市立博物館・白山市立博物館・内灘町歴史民俗資料館の常設展についても調査した。

四柳神社の獅子舞

御門主比古神社大町の獅子舞

お熊甲祭の猿田彦

唐島祭りの獅子舞

高岡市福岡歴史民俗資料館

白山市立博物館

４　学術資源としての祭礼芸能

富山県射水市加茂中部に鎮座する下村加茂神社の牛乗り式（やんさんま祭り）、富山県射水市加茂中部に鎮座する下村加茂神社の稚児舞について調査して、中世前期の祭礼芸能という視座に沿って学術的な価値を検討した。牛乗り式に関する成果は橋本裕之「牛乗式起源異考―越中における中世前期の祭礼芸能、その痕跡を探る―」（『神道文化』第 35 号、一般財団法人神道文化会、2023 年）と橋本裕之「牛に乗る男」（『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』17 号、神戸女子大学古典芸能研究センター、2023 年）として発表している。

また、福井県越前市などに数多く伝承されている獅子渡および関連すると思われる獅子舞についても調査して、中世前期の祭礼芸能という視座に沿って学術的な価値を検討した。実際は福井県越前市野岡町に鎮座する白山神社の獅子渡、福井県越前市赤坂町に鎮座する三嶋神社の獅子渡・福井県丹生郡越前町織田に鎮座する剣神社の獅子舞・福井県南条郡南越前町八飯に鎮座する八坂神社の獅子舞、福井県福井市鹿俣町に伝わるしたんじょうについて現地調査を実施した。とりわけ八坂神社の獅子舞は従来こそ中世前期の祭礼芸能に関係する事例として考えられていなかったが、その特異な形態が中世前期にさかのぼる可能性を想定させるため、今後くわしく検討したいと考えている。一方、かつて伝承されていた中世前期の祭礼芸能に関する様相を知らせる事例として、福井県越前市の岡太神社・大瀧神社に伝わる鼻高面と獅子頭、滋賀県高島市の日吉二宮神社に伝わる鼻高面について調査した。

２年度は日本海沿岸部以外の各地においても、中世前期の祭礼芸能の痕跡を色濃く残しており本研究にも深く関連する事例を取り上げた。実際は三重県鳥羽市岩倉町に鎮座する九鬼岩倉神社の鍬形祭、愛知県津島市神明町に鎮座する津島神社の闘鶏転供祭、静岡県島田市東光寺に鎮座する日吉神社の猿舞、岡山県岡山市北区一宮に鎮座する吉備津彦神社の御田植祭、滋賀県野洲市三上に鎮座する御上神社の芝原式、和歌山県東牟婁郡串本町田原に鎮座する木葉神社のねんねこ祭り、和歌山県日高郡日高川町鐘巻に所在する道成寺の絵解きについて調査して、中世前期の祭礼芸能という視座に沿って学術的な価値を検討した。また、前述した獅子舞の変異体であると考えられる虎舞をも視野に収めるべく、愛媛県松山市神田町に鎮座する三津厳島神社の虎舞および私自身が世話人として関わっている阪神虎舞について現地調査を実施した。

あわせて中世前期に淵源する祭礼芸能に関連したテーマを扱う弥富市歴史民俗資料館・賀茂真淵記念館・浜松市博物館・掛川二の丸美術館・ふじのくに茶の都ミュージアム・島田市博物館・道成寺の展示についても調査した。また、学術資源としての祭礼芸能に関する文献を収集するさいは、石川県立図書館・早稲田大学図書館・福井県立図書館・七尾市立図書館七尾ふるさと文庫を利用した。

下村加茂神社の牛乗式

下村加茂神社の稚児舞

野岡白山神社の獅子渡

赤坂三嶋神社の獅子渡

八飯八坂神社の獅子舞

岡太神社・大瀧神社の鼻高面と獅子頭

５　おわりに

２年度は福井県と石川県のみならず富山県でも調査する機会を設けることができた。富山県氷見市丸の内に所在する光禅寺の唐島祭り、富山県射水市加茂中部に鎮座する下村加

茂神社の牛乗り式（やんさんま祭り）、富山県射水市加茂中部に鎮座する下村加茂神社の稚児舞の３件であるが、牛乗り式についていえば、本研究の期間に先立って現地調査を実施しており、今年度に実施した補足的な現地調査の成果をも加味して、前述したとおり２本の論文として発表した。一方、富山県射水市加茂中部に鎮座する下村加茂神社の鰤分け神事と福井県三方郡美浜町宮代に鎮座する彌美神社の祭礼に奉納される神饌を取り上げて、中世前期の祭礼芸能に深く関わる「神饌が可視化するもの」という論文を完成させた。これは本研究の副産物とでもいうべき成果であるが、秋道智彌編『富山の食と日本海（仮題）』（桂書房）に掲載される予定である。

以上、本研究は日本海沿岸部における中世前期の祭礼芸能、とりわけ福井県・石川県・富山県に数多く伝承されている王の舞や獅子舞が地域社会に定着して個性的な民俗芸能に発展している消息を描き出すことをめざしている。実際は①教育資源としての祭礼芸能、②地域資源としての祭礼芸能、③学術資源としての祭礼芸能という三つの項目を設定することによって、こうした祭礼芸能を各種の文化資源として評価した上で、実際に活用する方法の可能性を提案することができるだろう。したがって、本研究は学術的な成果のみならず社会的な活動に発展する実践的な効果が期待されるはずである。

だが、令和６年（2024）１月１日に発生した能登半島地震は福井県・石川県・富山県に伝承されている民俗芸能にも甚大な被害をもたらした。報告者はかつて東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県沿岸部の民俗芸能を再生させるべく、日本財団や日本ナショナルトラストなどの助成を被災地に仲介する中間支援に従事した。くわしくは橋本裕之『震災と芸能―地域再生の原動力―』（追手門学院出版会、2015 年）を参照してほしいが、現在こうした団体のみならず被災地の学芸員や神職とも連携して、能登半島地震によって被災した民俗芸能を支援する活動の方向性について検討している。

中世前期に淵源する祭礼芸能も各種の文化資源として機能している様態を喪失してしまいかねないという意味において、きわめて危機的な状況に置かれている。本研究においてもこうした事態を的確に把握した上で、適正に対処することが喫緊の課題であると考えている。したがって、最終年度である３年度は能登半島地震を受けて、当初の計画を変更して新規の内容を追加する予定であることを付言しておきたい。実際は能登半島地震後に危機的状況に置かれた中世前期の祭礼芸能に関する長期的支援のための現地調査を実施する。